



著者 内田 正洋

海で見かけるカヌーのほとんどは、シーカヤックかシットオン（トップ）カヤックだ。シットオンは、カヤックの上に座った状態で漕ぐからそう名付けられた。このシットオン、シーカヤックとはまるで構造が違うカヤックだけど、同じようにダブルパドル（双刃櫂）で漕ぐから、漕いだ経験がない人にはその違いが分からない。よく見るとまるで違うのだけど、そこまで関心を持って見る人は少ない。海で漕いでいるから単純にシーカヤックだと誤解されることが多々ある。

シットオンは、元々はダイビング用のカヤックとして開発された。ポリエチレンという素材を使うことで独特の自動排水する構造体が簡単に、しかも大量に製造できるため、1990年代になって爆発的に広がった。最初はダイビング用だったけど、穏やかな水面では実に安定しているからリゾート地の水遊びに使われることで急激に広がり、さらに最近はフィッシング用として爆発的に広がっている。漕ぐ練習など必要がないぐらい安定していると思えるようだし、転覆しないものだとは勘違いする向きも多い。

基本的にシーカヤックは、seaworthiness（耐航性、堪航性）といって航海に耐え得る性能がある。初めてシーカヤックに乗ると少しグラグラするので安定性が悪いと思う人は多いけど、実はそれが逆で、穏やかな平水だからグラグラするだけで、海はいつも平水であるわけがない。風があれば波はあるし、砂浜などには砕波帯（サーフゾーン）があって波が立つ。そんな波の中でも安定するように平水ではグラグラ感がある。とはいえ、シーカヤックは旅の道具であるから、荷物を満載した状態にすると、実はそのグラグラ感も消えるほどに平水でも波の中でも安定する。じゃなきゃ、海旅なんぞはできないのである。シーカヤックは本来のカヤックに近く、数千年もの英知がそこに隠されており、21世紀の現在まで使われ続けているのだから、まさに持続可能な道具なのである。そう、シーカヤックは、SDGsなのですよ。

ところが、幅が広くて平水では安定しているシットオンは、波が出てくると傾いて転覆する可能性が俄然高くなる。しかもカヤックの「上」に座っているため風の影響も強く受けるし、何しろ幅広だからスピードが出ない。シットオンでフィッシングを楽しむ人たちは、カヤックの上にクーラーボックスや色々な装備を置いているため、不安定さがさらに増していることにも気付いていない場合が多い。風が吹き始め、自分が行きたい方へ進めなくなって初めて、そんな欠点に気付くことになる。

具体的に言うなら風速3m/sを少し超える風になると、海面には白波が立ち始めるのだけど、そうなったら漕ぎの初心者だと対処できない状況になる。風速3m/sは、いわばそよ風だけど、それが少しだけ強くなると（3.6m/s以上かな。風力階級では3の風）海面に白波が立ち始め、初心者には限界となってしまふ。同じ風でも、シーカヤックだと旅日和なんだけど、シットオンだと遭難が間近になるというとても大きな違いがある。

そんなわけで、シットオンの転覆による漂流や運航不能になる事故が後を絶たない。数も増えているからそれだけ事故も多い。フィッシングをやる人たちは、釣る方の技術は熱心に学ぶけど、肝心の漕ぎの練習が足りないように見受けられる。優れた漁師は優れた船乗りでもあるのは当たり前で、優れた漕手であれば優れたカヤック漁師にもなれよう。ちなみに、シーカヤックには構造上、基本的には限界がない。すべては漕手のレベルに左右される。したがって、事故は極端に少ない。